

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：観光（1）	
日付：11月3日（月）曜日、セッション時間：10:45～12:15	
司会者名（所属）：小池淳司（鳥取大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 観光の分析に際して、アンケート調査および過去の統計資料を用い、統計的分析を行った研究成果の報告がなされた。議論の中心は、観光需要・供給の分析の視点である。観光行動は、通常の交通行動あるいは財需要とは異なるが、ある程度集計された需要は、通常需要分析と同様に扱うことが出来る。一方で、個別の需要者の行動は、他の需要分析と異なり、単純に理解することが難しい分野であることが、会場の議論の中で確認された。 観光分析において重要な要素として、①分析視点の確認とそれに応じた政策分析②調査における方法論（満足度調査法など）③潜在需要の発掘方策と分析手法④TDL にみられるリピータ行動分析などである。
	（252）猪狩良介（マーケティングコミュニケーションズ）： 現在はテストケースであり、学生を対象としているため、ライフスタイル変数が利いていない。そのため、今後、より一般的な分析に期待される。また、最終的にはマーケティングの提案を行ううえで、方法論の見直しなど必要ではないかなどに関して、議論がなされた。
	（253）日比野直彦（政策研究大学院大学）： 過去の日本観光協会のデータを発掘し、それらを整理した。一時的な分析ながら、観光需要の嗜好変化が世代・時代・年代に分類可能であり、年代による影響が強いことが示された。議論の中心は、著者らが入手したデータの項目・利用可能性に関してであった。
	（254）兎原義弘（慶応義塾大学）： TDL 来場者におけるアンケート調査から、各種支出項目などと満足度の相関関係を分析した研究である。議論の中心は、満足度を計測するための方法論として、どのような質問表を作成すべきか、あるいはパネル調査などが必要ではないかに関してであった。